

派遣専門家オリエンテーション資料

トルクメニスタン

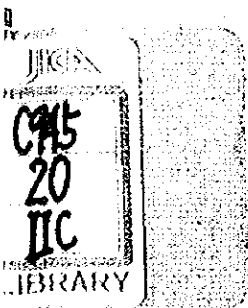
# トルクメニスタン

TURKMENISTAN

## 任国情報

1994年

国際協力事業団  
国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては外務省、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成 6年 3月

国際協力事業団  
国際協力総合研修所長

JICA LIBRARY

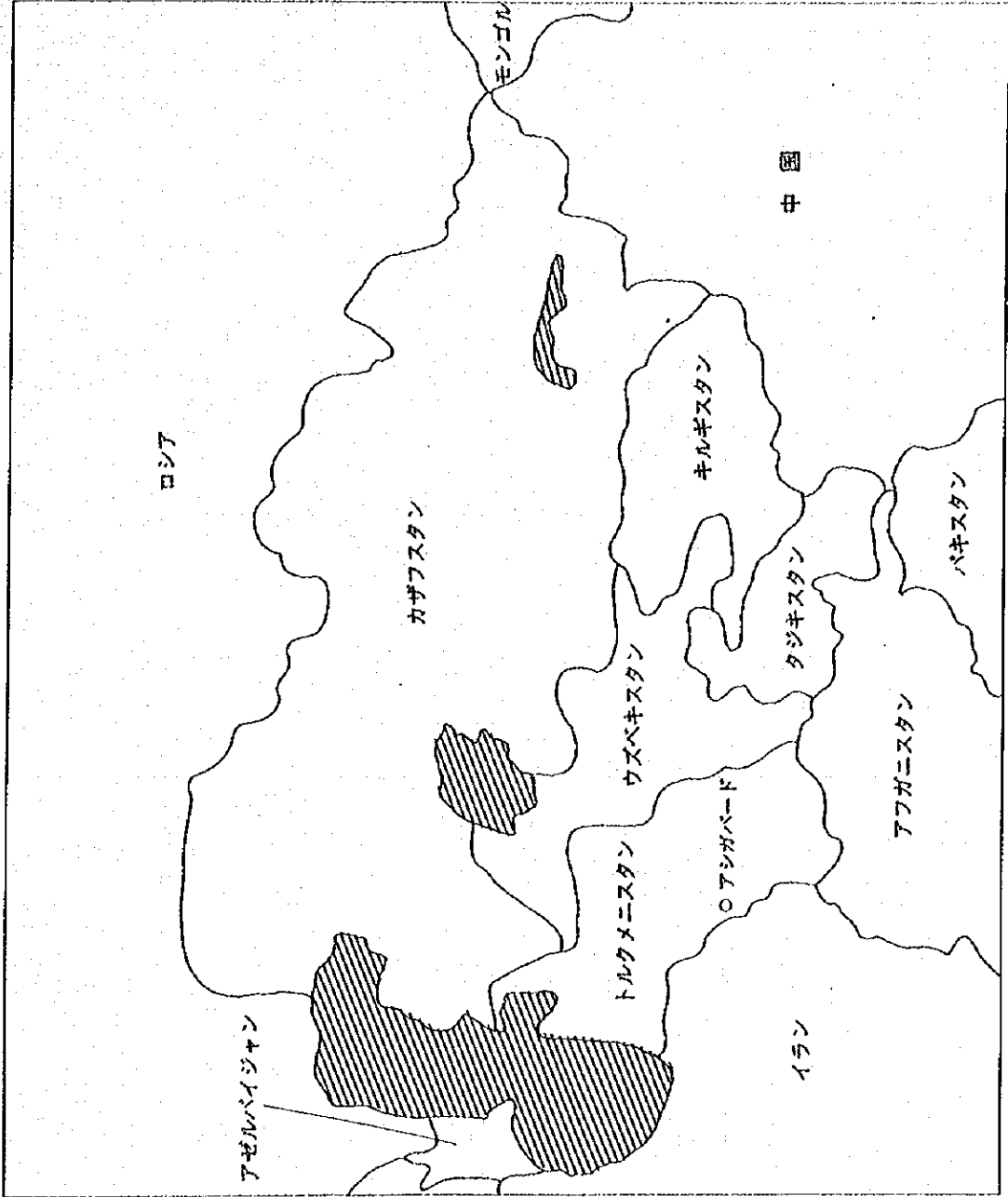


1111288151

国際協力事業団

25955

トルクメニスタン



## 目 次

### I 一般事情

1. 主要指標	1
2. 略 史	2
3. 政治、外交	3
4. 経済事情	4
5. 我が国との関係	7

### II 生活事情

1. 食生活	9
2. 衣 料	11
3. 住 宅	12
4. 医 療	14
5. 教 育	16
6. 家庭の使用人	17
7. 交通事情	18
8. 通 信	19
9. マスコミ	20
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	21
11. その他のサービス	22
12. 観 光	23
13. 治安、緊急時の心得	24
14. 出入国手続および帰国手続	25
15. 私財の輸送、引き取り、購入	26
16. 社 交	27
17. 任国官公庁	28
18. 在外日本関係機関など	29
19. 地方都市	30

## I 一般事情

### 1. 主要指標

1-1 国名	トルクメニスタン Turkmenistan
1-2 独立	1991年10月27日
1-3 首都	アシガバード Ashgabad 人口 40万 7,000人 (1990年)
1-4 面積	48万 8,100平方キロメートル (日本の約 1.3倍)
1-5 気候	全般的に大陸性気候である。アシガバードの年平均気温は 16.3℃、年間降水量は 239ミリである。
1-6 人口	383万 8,000人 (1992年 7月) 人口密度 1平方キロメートル当たり 7.9人
1-7 人種構成	トルクメン人72.0%、ロシア人 9.5%、ウズベク人 9.0%、 カザフ人 2.5%など
1-8 言語	トルクメン語 (公用語)、ロシア語
1-9 宗教	イスラム教スンニ派、ロシア正教
1-10 政治	
(1) 政体	共和制
(2) 元首	サパルムラド・A・ニヤゾフ大統領 (Saparmurad A. Niyazov, 1990年10月選出、92年 6月再選)
(3) 議会	1院制 (50議席、任期 5年)、最高立法機関は大統領主宰 の国民評議会
(4) 政党	主要政党はトルクメニスタン民主党
1-11 経済	
(1) GNP	63億 8,700万ドル (1991年) 1人当たり 1,700ドル (1991年)
(2) 主要産業	鉱業 (天然ガス、石油、マグネシウム、硫黄)、綿花、軽 工業 (繊維、製靴、一般消費財)
(3) 貿易	輸出 輸入
(4) 財政	歳入 歳出
(5) 通貨	通貨単位 ルーブル (Ruble ) 為替相場 1ドル = 687.449ルーブル (1993年 4月)
(6) 外貨準備高	
(7) 対外債務	
1-12 日本との時差	日本との時差は 5時間で、日本の正午は午前 7時である。

## 2. 略 史

紀元前 6世紀ごろペルシアが支配していた。イラン系住民やスキタイ系遊牧民の地域だったが、中央アジアからトルコ系遊牧民が徐々に移動し、10世紀頃民族のトルコ化が大きく進んだ。1881年ロシアがアシガバードを征服、ロシア革命後にトルキスタン、ヒバ、ブハラ の 3共和国が成立した。

1924年10月27日、中央アジアの国家再編で「トルクメン・ソヴィエト社会主義共和国」が創設され、25年 5月ソ連に加盟した。

1990年 8月22日主権宣言をし、10月27日国民の直接投票による初の大統領選挙で、唯一の候補者である元ソ連トルクメン共和国共産党第 1書記のニヤゾフ最高会議議長が当選した。91年10月26日には独立の是非を問う国民投票が実施され、94.1%が独立に賛成した。

### 3. 政治、外交

#### 3-1 最近の政情

ニヤゾフ大統領は1992年 5月 9～10日、首都アシガバードに政情不安のタジキスタンを除く経済協力機構（E C O）拡大首脳会議のメンバーを招いて、西南アジアと旧ソ連中央アジアのイスラム系諸国首脳による地域経済協力会議を開催、威信を誇示した。

1992年 5月18日、最高会議は大統領主導の国家体制を規定した新憲法を採択した。新憲法は、大統領を元首ならびに政府の長とする大統領内閣制をとり、大統領に憲法と刑法を除く立法権を付与、副大統領職を廃止するなど大統領の権限を強化した。6月21日、ニヤゾフ大統領を唯一の候補者とする大統領選挙が行なわれ、99%以上の支持率で同大統領が再選された。大統領は 6月28日から内閣を直接指導している。

旧ソ連の各共和国がそれぞれに民営化政策に取り組むなかで、ニヤゾフ大統領は今世紀いっぱい民営化しないと公約している。

#### 3-2 外 交

C I S 諸国との関係維持・強化を外交の最優先としているが、ウクライナとの間では天然ガスの取引価格をめぐる対立している。

近隣諸国との関係は、原則として政教分離、内政不干渉で臨んでいる。トルコ、イラン、アフガニスタンとの関係は今後ますます深まっていくものと思われる。特に言語、文化が近似し、イスラム系でありながら西欧化を推進しているトルコとは急速に関係を深めている。

1992年 5月時点で90ヵ国以上の国々から独立を承認されており、92年 3月には国連に加盟した。イラン、トルコ両国は他の国々に先駆けて大使館を開き、トルクメニスタンとの関係強化をきそっている。

軍事政策は、ロシアとの軍事協力・相互防衛を基本としている。



## 4. 経済事情

### 4-1 概 観

経済的には、社会主義経済から市場経済への移行に伴う経済的混乱が経済に大きな影響を与えており、こうした経済困難が当分の間続くものと予想される。さらに、ロシア人をはじめとする少数民族の存在、高い人口増加率と失業者の増加といった問題に直面しており、国民の生活水準を上げるためには、国家建設と経済再生を平行的に行なわざるを得ず、総じて前途は多難なものがある。

市場経済の導入については、トルクメニスタンは急激な経済改革による混乱を避けるべきとの立場から、改革は漸進的である。

1992年1月、一部消費物資に上限をもうけた価格の自由化を実施した。4月には旧ソ連中央アジアの5ヵ国による「共同市場」創設に合意したが、豊富に産出する天然ガスと石油製品の価格については譲歩しなかった。また同年、イランとの間で、対立しているウクライナを避けてトルコ経由で西ヨーロッパに天然ガスを供給するためのガス・パイプライン建設協定に調印した。トルコ、イランおよび南部隣接諸国との協力関係を目指している。

トルクメニスタンは豊富な天然ガスを自立のためのてこにしようとしており、中央アジアでも独自色を出していたが、1992年10月には最終的にルーブルを決済の統一通貨とするルーブル圏創設協定に調印した。

外国企業の誘致はきわめて積極的で、石油や天然ガスで外貨獲得にものり出している。

なお、経済協力機構（ECO）には1992年2月に加盟している。

### 4-2 産 業

#### (1) 鉱 業

トルクメニスタンの産業の中心は、天然ガス、石油と他の鉱産物の生産である。

特に天然ガスは旧ソ連の手で大規模な投資が行なわれた結果、旧ソ連全体の天然ガス生産の12%を産出し、CISではロシアに次ぐ2番目の生産国となっている。旧ソ連時代には原料生産に特化させられていたため、天然ガス生産の95%が輸出に回っていた。

石油の年産量は530万トンであり、新油田が発見・開発されつつあることから、将来の増産が期待されている。

表1 エネルギーの生産量

	1985年	1990年	1991年	1992年
電 力(10億キワ時)	15.7	18.1	17.5	16.8
石 油(100万トン)*	6.0	5.7	5.4	5.2
天然ガス(10億立方メートル)	83.2	87.8	84.3	60.1

(注) \*はガスコンデンサート(圧縮液化ガスなど)を含む。

(2) 農 業

トルクメニスタンは、中央アジアではウズベキスタンに次ぐ綿花生産国である。年産量は約140万トンだが、国内加工度は3%にすぎず、中央計画経済下で原料を安価に供給する役割を担わされていた。

綿花のほかに、家畜の飼育、毛皮用の羊の飼育が主である。今後は綿花の作付削減と食糧増産に向けた多角化が必要である。

表2 主要農畜産品生産高

(単位：1,000トン)

	1985年	1990年	1991年	1992年
食 肉(加工)	38.4	41.1	36.8	28.9
動 物 油	3.6	4.5	4.3	4.2
全乳製品(牛乳換算)	99.2	129.0	127.0	112.0
植 物 油	87.7	104.0	104.0	85.3
穀 物(最終製品)*	316.0	449.0	516.0	776.0
原 綿	1,287.0	1,457.0	1,433.0	1,301.0
じゃがいも	21.0	35.0	30.0	38.0
野 菜	312.0	411.0	388.0	338.0
果 物	39.0	47.0	56.0	59.0

(注) \*の単位は100万トン。

### (3) 工業

主要な工業生産高の近年の推移は以下のとおりである。

表3 主要工業製品生産高

	1985年	1990年	1991年	1992年
化学肥料(100万トン)	0.1	0.2	0.2	0.1
セメント(100万トン)	1.0	1.1	0.9	1.0
繊維品(100万平方メートル)	40.2	53.4	49.2	51.2
靴(100万足)	4.6	5.1	4.2	3.2

#### 4-3 財政

#### 4-4 貿易、国際収支

輸出入は対外経済委員会の所管である。外国貿易は依然として規制が残っている。

輸出はクォータを設定して、ライセンスを発給する形である。現在、35品目についてライセンス発給がなされており、うち12品目がクォータ品目となっている。

対外経済委員会によると、主要品目の1991年の輸出実績は天然ガスが750億立方メートル、綿花・綿糸が6万トン、石油製品が22万トン、硫黄が2万トン、じゅうたんが2万平方メートル、アストラカン毛布が2万枚などで、ほかには電力、羊の毛皮、ヨウ素、化学肥料などを輸出した。

輸入は自由化されているが、外貨割当制となっている。輸入外貨割当は、閣僚会議が優先産業を指定し、それらの産業に輸入外貨を割り当てる仕組みで、具体的には、繊維、化学、天然ガスなどの産業に優先的にそれが割り振られる。

旧ソ連に対する対外債務については、旧ソ連構成諸国との間で交渉が続いているが、トルクメニスタン分0.6%については、ロシアが引き継ぐということで基本合意ができています。

## 5. 我が国との関係

### 5-1 政治、外交

我が国は1992年 4月22日にトルクメニスタンと外交関係を樹立した。

### 5-2 経済、貿易

我が国との貿易（輸出入）状況は以下のとおりである。

表1 対日主要輸出入品目（1992年）（単位：1,000ドル）

対日輸入		対日輸出	
アクリル単繊維織物	143	キャビアおよび代用品	322
ショール・スカーフ	587	綿 花	2,217
鋼 管	3,744	総 額	2,601
溶鍛接鋼管	1,955		
総 額	6,500		

### 5-3 経済・技術協力

我が国は、ソ連崩壊後のあらたな国際情勢のもとでのアジアの一角としての中央アジア地域の重要性に鑑み、これら 5ヶ国の民主化および市場指向型経済導入の努力を積極的に支援していく方針である。中央アジア諸国は1993年 1月 1日よりOECD開発援助委員会（DAC）途上国リストへ掲載されたが、これは、中央アジア諸国 5ヶ国に対するODA供与に道を拓くため、我が国がDAC諸国に対してこれら諸国のDAC途上国リスト掲載を積極的に働きかけた結果であり、我が国が中央アジア支援を重視していることの表れである。

中央アジア諸国に対する協力は、これら諸国が社会主義体制から市場経済体制への移行期にある国であり、ソフト面での協力がより重要であると考えられることから、当面は中央アジア諸国のニーズを踏まえ、技術協力の分野で、人遣り（研修員受入れ、専門家派遣など）、計画作り（開発調査）などを中心に協力を実施していく考えである。また、有償資金協力については、民主化・市場経済化へ向けた改革を進め、経済構造調整プログラムにつき世銀・IMFとの合意を達成した国については、世銀など国際金融機関との協調融資を行なうことを検討するとともに、プロジェクト型円借款についても、経済開発計画に明確に位置づけられ、成熟度の高い案件については供与の可能性を検討していく考えである。無償資金協力については、1人当たりGNP水準の高さなどに鑑み、いずれの国に対しても1993年度の一般無償資金協力の実施は原則として困難であるが、GNPの数値が今後変化し無償資金協力の供与適格国になった場合には、供与の可能性を検討していくことになろう。

我が国は、旧ソ連支援の一環として、中央アジア諸国がDAC途上国リストに掲載される以前の1991年から、研修員受入れ、専門家派遣などを実施し、92

年10月の旧ソ連支援東京会議において表明したN I S諸国に対する1億ドルの緊急人道支援の一部を中央アジア諸国にも配分してきた。

D A C途上国リスト掲載後の1993年2月、我が国は、経済協力の本格的実施に備えるため、我が国の経済協力スキームについて先方政府の理解を得るとともに、各国の経済改革進歩状況の調査、援助ニーズの把握を行なうことを目的として、関係各省庁・機関総勢30人からなる経済協力調査団を派遣した。当時、中央アジア各国とも市場経済移行への対応に苦慮していたが、その対応ぶりにはかなり差異があり、例えばキルギスタンでは世銀・I M Fの経済改革プログラムに積極的で、これによって援助を獲得しようとする姿勢が見られる一方、例えばトルクメニスタンでは、むしろ豊富な天然資源開発のための外資導入を優先するとの姿勢が見られた。そのほか、塩害による環境破壊が著しいアラル海問題について国際的枠組みによる対応の必要性などが確認された。

さらに我が国は、1992年10月の旧ソ連支援東京会議において表明した中央アジア5ヵ国に対する3年間で合計300人の研修員受入れを順次開始している。

## II 生活事情

### 1. 食生活

#### 1-1 食料

##### (1) 一般事情

食料品は一般的には品薄であり、特に野菜などの生鮮食料品の不足が目立っている。主食となるパンも種類によっては品切れになる。肉類、じゃがいもなどは十分に回っている。魚などの海産物の入手はほとんど不可能である。夏季にはスイカ、メロン、ブドウが出回るが、キャベツなどの野菜はあまり見かけず、冬季は極端に品薄となる。

また、食料品の購入は市（アシガバード）中心部のバザール（公営マーケット）が品数、鮮度、便利さの点でよい。小規模なバザールは街の各所にある。ホテルの食事にはライスよりもそばが一般的であり、不衛生な食事が多い。日本と同じように急須を使い、緑茶をよく飲む風習がある。

##### (2) 主な食料の出回り状況

夏季は果物のなかでもブドウ、スイカ、メロンが爆発的に出回る。

肉類については、牛肉、鶏肉、マトンが豊富に売られているが、豚肉については入手がむずかしい。

牛乳のパック入りのものはない。バザールでヨーグルトなどが売られているが、衛生上問題があるものも多い。

酒類は国産のウオッカ、コニャックの入手が比較的可能であるが、輸入缶ビールは一部のホテルを除いて入手できない。国産のビールは味がよくない。

##### (3) 食料の入手

市内には郊外も含めて数多くの青空マーケットが開かれ、食料品の売買が行なわれているので、食料品の購入はこのバザールを利用するのが便利である。

市中心部のバザールの近くには唯一のデパートがあり、週末は買物客でにぎわう。（衣料品その他も売られている）

#### 1-2 食器・調理器具など

##### (1) 食器・調理器具などの入手

茶わん、皿などの陶器は入手可能であるが、種類は多くない。やかんや鍋も売られているが、品質はよくないものが多く、また中国製が多く、粗雑なものが多い。スプーン、フォークも簡単に曲るものがほとんどである。

##### (2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

現地で購入できるものは、品質上、粗悪なものが多く、できれば日本から持参するのがよい。特に調理器具のなかでも電化製品については、現地で調達可能なものはまったくといってよいほどない。

家電使用のための電圧は 220ボルトであるが、変圧器の現地購入も不可能である。

### 1-3 外 食

#### (1) 飲食店

街なかにレストランはあるが、推薦できるようなレストランはほとんどない。唯一推薦できるのは、郊外のインディペンデントホテルのイタリア料理レストランだけである。外資系のホテルであり、少々高いが、まともなイタリア料理が食べられる。同ホテルの地域には、あらたに十数軒の豪華なホテルが建設中であり、開業に伴いあらたな高級レストランがオープンする予定である。そのほかにアシガバードホテル、ユビレイヤナホテルのレストランなどがあるが、食事のために出かけるほどのものではない。

#### (2) その他の飲食店

街なかに、ピザとビールを出す店がある。

## 2. 衣 料

### 2-1 衣 料

#### (1) 一般事情

イランと国境を接していることから解るように、内陸性砂漠気候のため季節による寒暖の差が激しく、特に夏は50℃（8月）に達することもある。また、砂嵐があることもめずらしくなく、こうした日は日中も砂塵が舞い、うす暗い1日となる。

夏、冬に備えた衣料の準備が必要であるが、冬の寒さはそれほどではない。

#### (2) 日本から持参した方がよい衣料

すべての衣料品について、日本から持参した方がよい。

#### (3) 任国で調達した方がよい衣料

輸入品以外は粗雑であり、任国で調達するより、日本から可能なものは持参した方がよいと思われる。

#### (4) その他の留意点

カスピ海沿岸にリゾート施設があり、夏は海水浴ができる。水着があるとよい。

### 2-2 礼 装

#### (1) パーティ

特別な服装は用いない。

#### (2) 式 典

特別な服装はない。

#### (3) その他の冠婚葬祭

葬儀はイスラム式の葬儀であり、モスクで執り行なわれるが、服装については特に決まったものはない。

#### (4) その他の留意点

### 2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

#### (1) 洗 濯

クリーニングサービスは少なく、街なかで見つけることはむずかしい。スーツなどのクリーニングは生地が傷むので注意を要する。

#### (2) 仕立て、修繕

仕立て、修繕をしてくれる店はない。



### 3. 住 宅

#### 3-1 住宅事情

##### (1) 一般事情

旧ソ連の住宅政策は、集合アパートの建設に重点がおかれたために、アシガバードなどの都市部の一般的な住宅は、そのほとんどがアパート形式であり、なかでも5階建てくらいのエレベーターなしの造りが多い。近年の新規住宅投資により、郊外にも高層のアパートの建設が進んでいる。

ほとんどの一般居住用アパートは、築後年数が古く、建築技術も粗雑であり、外観も内装も古びたものが多い。窓ガラスにアルミサッシが使われているものはまったくない。これらのアパートは依然として公有のものが多く、個人所有といった民営化は進んでいない。一般家庭での平均的な居住面積は60平方メートル程度であるが、両親、親族との同居が多い。

民間賃貸住宅は普及しておらず、特に外国人向けの物件は少ないため、探すのはかなり困難である。

##### (2) ホテル事情

旅行者、一般外国人の利用するホテルには、以下のものがある。

アシガバードホテル——高層建築で外観は立派であるが、内装はひどく荒れており、設備、サービスともにひどい。水も出ず、シャワーも浴びられないことが多い。宿泊料は50ドル（シングル）で、テレビ、バス、冷蔵庫の設備がある。

ノギサホテル——政府系のホテルであり、建物・設備は比較的よく管理されているが、ホテル内の食事は日本人の口に合わない。シングルの部屋は隣の部屋とシャワーが共同使用であり、浴槽はない。水不足で水が出ず、熱湯だけのためにシャワーが浴びられないこともある。宿泊料は60ドル（シングル）で、テレビ、クーラー、シャワー（共同）の設備がある。

ユビレイヤナホテル——政府系のホテルであり、アメリカ大使館が入居している。レストランの食事は、ほかのホテルよりも数段よい。宿泊料は60ドル（シングル）である。

インディペンデントホテル——ビジネス客を対象とした外資系の高級ホテルであり、値段を除いては申し分ない。宿泊料は280ドル（シングル）で、テレビ、冷蔵庫、バス、クーラーの設備がある。

##### (3) 住宅の探し方

エージェントはない。家賃は市場経済による妥当な価格というものがなく、持主の言い値になっており、比較的高い。しかし、個人的に探して交渉すれば安いものがある。

##### (4) 住宅の選定上の留意点

大家が適切な家賃はいくらか、といった感覚を身につけていないことがある。現状の住宅構造は治安上の対策はまったくとられていないことから、選定にあたっては、なるべくセキュリティを考慮した方がよい。

アパートは古いものが多いことから、給湯栓や排水管の状況、暖房用のスチ

ームの作動の確認をした方がよい。

(5) 住宅の契約

契約の状況については不明である。

長期滞在の外国人も少なく、住居の契約例が少ないため、実情把握がむずかしい。ECのコンサルタントが、家賃 400ドルでアパートを借り受けたケースがある。アメリカ大使館のスタッフもホテル滞在のため、住居契約の参考とならない。

(6) 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気、ガス、水道は無料である。電話は使用料を払い込む必要があるが、市内電話の料金は非常に安い。

#### 4. 医 療

##### 4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

特に必要な予防接種はない。

(2) その他の準備

一般常備薬については、携行する必要がある。特殊な薬剤についての現地調達には、ほとんど不可能である。また、歯科治療は日本で済ませるべきである。

##### 4-2 医療事情

(1) 医療機関

病院はあるが、設備も貧弱で薬品のストックも十分ではない。

##### 4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

携行できる医薬品については、全部持って行くことが望ましい。

(2) 任国で調達できる医薬品

調達できる薬はきわめて少ない。

##### 4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

現状では日本での出産が望ましい。

(2) 出産後の対応

飲料水などの衛生状態が非常に悪く、乳児死亡率も高いこと、ミルク、乳製品の入手も困難なことから、出産直後の育児は困難である。

(3) 育 児

乳幼児食品の入手は困難である。

##### 4-5 手 術

(1) 任国で可能な手術

あらゆる外科手術は、避けた方がよい。

(2) 手術設備の状況

外科手術の設備は、きわめて貧弱である。

##### 4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

かぜ、下痢がもっとも多い。

(2) 風土病・伝染病

これといった風土病はない。ただし、衛生状況がよくない。

(3) 有害動物、病虫害

特にない。

##### 4-7 保健衛生

(1) 飲料水

全土的に飲料水の水質は非常に悪い。水道水を煮沸させて飲用するのもよいが、国産のミネラルウォーターの入手も可能である。

(2) 濾過器の入手法

日本から持って行く必要がある。

(3) その他の留意点

野菜、果物などの残留農薬に注意する必要がある。

夏季の衛生状態には問題も多く、消化器系の病気には注意する必要がある。

## 5. 教 育

### 5-1 教育事情

#### (1) 一般事情

教育制度は非常によく整備されているが、専門教育はロシアで受けることが多い。ロシア語教育が主であり、英語の教育は十分に普及していない。

子弟の現地での教育に関しては、まだ設備、教育環境とも十分ではない。

#### (2) 日本人学校

ない。

#### (3) 現地校、外国人学校

初等教育で、英語による授業が行なわれる学校はない。高等教育では英語を教える学校が 2 つある。

### 5-2 入学手続および授業料

該当情報なし。

### 5-3 教育関係施設

#### (1) 図書館

施設はある。

#### (2) スポーツ施設

プール、テニスコート、スポーツクラブなどもない。

## 6. 家庭の用人

### 6-1 一般事情

インフレ、低賃金など経済状況が悪化しているため、潜在的な供給のポテンシャルは高い。

## 7. 交通事情

### 7-1 交通手段

#### (1) 一般事情

公共交通機関であるトロリーバス、バスがもっとも一般的であり、料金も非常に安い。タクシーもあるが、公営であるにもかかわらず、割高の請求をしてくる運転手が多い。

街なかの通りは信号制御されており、車の数も増加傾向にあるが、渋滞などはない。車、歩行者とも交通マナーが悪く、運転、歩行には十分注意を要する。

#### (2) 自家用車を利用する場合

ガソリンの利用については、質はともかく、入手はそれほど困難ではない。輸入ガソリンも出回っている。

外国車はベンツ、BMWなどがわずかに走っているが、ほとんどはロシア製の車で、日本製の車はまったく見かけない。輸入車は急増している。

運転マナーが悪く、スピードの出しすぎが多い。

#### (3) レンタカーなどを利用する場合

調達できるレンタカー会社はない。

#### (4) 道路地図

道路地図は販売されていない。一般的に地図類の入手はほとんど不可能である。

### 7-2 交通事故

#### (1) 対処方法

警察官の現場検証を待つのが一般的である。

#### (2) 盗難

保険会社による盗難保険などはない。

### 7-3 車の修理

#### (1) 部品

日本車の代理店などはまったくなく、部品の調達は非常にむずかしい。ロシア製の車も同様である。

#### (2) 修理工場

極めて少ない。

## 8. 通 信

### 8-1 電 話

#### (1) 一般事情

電話設備は旧式のものが多く、通信事情は非常に悪い。アシガバード市内は電話回線もある程度整備されているが、混線、不通が頻繁であり、雑音などで聞き取りにくいことがある。

電話料金は非常に安い。

#### (2) 国内電話

料金は月払いで電話局に払い込む。

#### (3) 国際電話

日本への電話はなんとかかかる。料金は 1分につき 3ドル程度である。

### 8-2 電 信

#### (1) テレックス

テレックスは普及していない。

#### (2) ファクシミリ

ファクシミリの普及は遅れており、備えられている場所はきわめてまれである。

日本へのファックスは、送受信とも可能である。

### 8-3 郵 便

#### (1) 一般事情

郵便事業の信頼性、効率は非常に悪く、国外郵便はもとより国内郵便でさえ信頼性は低い。

郵便ポストに投函することは禁物である。



9. マスコミ

9-1 新聞

新聞はロシア語のみである。

9-2 ラジオ

(1) ラジオジャパン

ラジオジャパンの受信が可能であるが、受信状態は悪い。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

テレビは国内制作番組のほか、ロシアからの番組も放送されている。

## 10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

### 10-1 映画、演劇

#### (1) 映画館

映画館があるが、上映は三流映画がほとんどである。

#### (2) 劇場

季節によって演奏会などがある。

### 10-2 出版・書籍

#### (1) 一般事情

旧ソ連で出版された書籍のみであり、ロシア語ばかりである。書籍の印刷はロシア領土内で行なわれていたために、近年は新しい出版物はない。

#### (2) 書店

数は極めて少なく、おかれている書籍も種類が少ない。

### 10-3 文化活動、文化施設

文化活動は一般的に盛んでない。文化施設としては街なかに小さな民族博物館がある。

### 10-4 娯楽、遊戯など

#### (1) 娯楽、遊戯、ゲーム

毎週末には郊外でサンデーバザールと呼ばれている青空マーケットが開かれ、日用雑貨、食品から中古車、新車の展示即売などが行なわれ、多くの人で早朝からにぎわう。

輸出品として有名なトルクメンじゅうたんもこのサンデーバザールで買える。1.5平方メートル程度のじゅうたんは品質のよい手織のもので30万ルーブル程度である。大型のじゅうたんは出国時の課税対象となる。

### 10-5 スポーツ

#### (1) ゴルフ

ゴルフ場はない。

#### (2) テニス

テニスコートはない。

#### (3) 水泳

街なかにプールはないが、夏季は噴水施設が子供の水遊び場になる。

郊外のリゾート村にプールがあるが、水は白濁して汚れており、すすめられない。

#### (4) その他のスポーツ、用具、ウェア

ない。

#### (5) スポーツクラブなど

ない。

11. その他のサービス

11-1 美容院

11-2 理髪店

理髪店は街なかであり、料金も安い。剃刀などの消毒をはじめ衛生管理はあまり行き届いていない。

## 12. 観 光

### 12-1 主要観光地・保養地ガイド

アシガバードから車でイラン国境沿いに山間地に入っていくと、30分くらいで「フェルザバレー」と呼ばれる山間の保養・観光地があり、夏季は涼しさを求めて人が集まる。保養宿泊施設があり、キャンプ村といった感じで、夏は保養客でにぎわう。大統領の別荘（ダーチャ）が付近にあるため乗用車では直接行くことはできず、途中の検問所でバスに乗り換える必要がある。

また、カスピ海沿岸には、夏の水浴を楽しむ設備の整ったリゾートがある。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

電話事情が悪く、一般時の通信も困難である。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

治安は比較的よく、安定している。しかし、郊外のバザールでのスリ、ひったくりには注意すること。

## 14. 出入国手続および帰国手続

### 14-1 入 国 時

- (1) 空港施設概要  
空港内は荷物運び用のカートもなく、ポーターもない。
- (2) 入国審査  
入国審査などはいたって簡単であり、ビザがあれば特段問題はない。
- (3) 税関検査  
税関検査もない。
- (4) 空港からのトランスポート  
バス、タクシーが利用できる。タクシーの場合、市内までは15分程度の距離である。
- (5) その他の留意点

外国人の金銭の使用——銀行制度の整備が極端に遅れており、外国為替の送金を扱う銀行はない（あっても実質的な用はなしていない）ので為替送金は不可能である。

また、クレジットカード（一部のホテルを除く）、トラベラーズチェックの使用もできない。ドルキャッシュであれば、ほとんどの場所で使用ができるが、高額ドル紙幣のおつりがない場合があるので、小額紙幣を多量に持ち歩く必要がある。

ルーブルからドルへの交換は原則的には可能であるが、諸般の理由によりできないと考えた方がよい。

送金——現在、日本大使館、商社の事務所があり日本人が滞在している都市（アルマトイ、タシケント）でもモスクワで銀行口座を開設して生活費、公金を必要に応じて引き出しているのが一般的である。

為替レート——ルーブルが通用しているので外貨の交換は銀行、ホテルにてドルからルーブルへの交換が可能である。ただし、流通紙幣の不足により交換が停止されることもある。流通しているルーブル紙幣は1992年以前の旧紙幣が多く、これらの旧紙幣のうち高額紙幣はロシアではすでに使用がなくなっている。交換レートはモスクワでのレートに連動しているが、自由化されて以来、公定レートと市場為替レートの2本建てで行なわれている。市場為替レートはいわゆる闇レートといわれていたものであるが、公定レートよりも交換率がよく一般的である。

自国通貨——トルクメニスタンは今頃、自国通貨の導入を実施する予定である。

### 14-2 出 国 時

- (1) 出国時の概要  
一般カウンターとは異なるインツーリスト専用カウンターで出国手続をとることとなる。

15. 私財の輸送、引き取り、購入  
該当情報なし。

16. 社 交

該当情報なし。



17. 任国官公庁

当面の日本からの技術協力にかかわる窓口官庁は、下記のとおりである。

Cabinet of Ministers

Dept. of Agriculture TBL (3632) 74-40-08

18. 在外日本関係機関など

なし。(カザフスタンのアルマトイとウズベキスタンのタシケントに日本大使館がある)

19. 地方都市  
該当情報なし。

## 任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はJICAの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステータスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

### アジア地域

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア  
(ジャバ、スマタラ、スマタラ、スマタラ)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コロン)
18. ヴィエトナム

### 中近東地域

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. ジョルダン
5. クウェイト
6. モロッコ
7. オマーン
8. カタル
9. サウディ・アラビア
10. スーダン
11. シリア
12. テュニジア
13. トルコ (アタラ、イスタンブール)
14. アラブ首長国連邦 (ドバイ)
15. イエメン (サナ)

### 太平洋地域

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア

### 欧州地域

1. カザフスタン
2. キルギスタン
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン

### アフリカ地域

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. キニア
10. コートジボアール
11. ケニア
12. リベリア
13. マダガスカル (アンタナナリワ、フィエソ・アリス)
14. マラウイ
15. モーリシャス
16. モザンビーク
17. ニジェール
18. ナイジェリア
19. ルワンダ
20. サントメ・プリンシペ
21. セネガル
22. セイシェル
23. ソマリア
24. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンザール)
25. トーゴ
26. ザイール
27. ザンビア
28. ジンバブエ

### 中南米地域

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サウタ・クリスタル)
3. ブラジル  
(ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、ベネズエラ、ポルト・アレックス)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンセナダ・デル・ノルテ)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグワイ
19. ヴェネズエラ

## 任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

[送付先] 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5  
 国際協力事業団国際協力総合研修所  
 技術情報課 任国情報係

国名		年度		年版
----	--	----	--	----

氏名		年齢	歳	性別	男・女
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目	派遣期間		
JICA役職員					
JICA専門家等					
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)		
住所					
電話番号		日付	年	月	日

ページ	行	内 容

国 総 研 記 入 欄					
記事		技術情報課確認印			
		データベース修正処理	課長	代理	担当
		月 日	月 日	月 日	月 日

---

「任国情報（トルクメニスタン）1994年版」

平成6年3月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357

編集協力 財団法人 日本国際協力センター

---

